



講道館柔道指導者のインドネシア視覚障害者柔道ナショナルチーム選手の指導



インドネシア、ペルー 視覚障害者柔道の発展を目指して 2018年2月～2020年3月

JICAのスポーツ分野の取り組みは、Tokyo2020に向けた日本政府の公約であるスポーツ・フォー・トゥモロー（SFT）の達成目標（2020年の東京オリ・パラ大会までに100カ国・1,000万人以上を対象にスポーツを通じた国際貢献を行う）に向けて貢献することが期待されています。その一環として青年海外協力隊事務局では、日本国内のスポーツ競技有識者の海外派遣事業や海外のスポーツキーパーソンの日本への招へい事業を行なっています。

2018年2月、講道館の柔道指導者をインドネシアに派遣、インドネシア視覚障害者柔道ナショナルチームの選手に柔道指導を行なうとともに、審判員講習を行いました。2019年3月、インドネシアとペルーの視覚障害者柔道選手・パラリンピック委員会関係者を日本に招へいしました。選手は、東京国際視覚障害者柔道選手権大会2019と大会後に開催された合同合宿に参加しました。日本を含む世界15カ国から、パラリンピックメダリストや世界ランク上位の選手を含む64名の選手が集まり、互いに技を競い、磨き合いました。両国では、国際大会出場により視覚障害者柔道選手の競技力が向上されるとともに、選手がロールモデルとなることで、少しずつ視覚障害者スポーツの普及が進んでいます。

～活動や目指す成果～

選手の技術レベルの向上

柔道指導者の指導を受けた選手の技術レベルが向上し、国際大会での試合経験が蓄積されています。また、試合や合宿を通じ、インドネシアやペルーの視覚障害者柔道関係者が日本や他国の視覚障害者柔道関係者とのネットワークを構築しました。

審判員の育成

審判員講習を受講した審判員が国際審判ライセンスを取得し、国際大会での審判員経験が蓄積されています。

障害者スポーツ、視覚障害者柔道関連情報の収集

選手、コーチ、スポーツ関係者からの聞き取りにより、インドネシアやペルーにおける障害者スポーツ、視覚障害者柔道普及の現状、課題、今後の展開についての情報を収集しました。